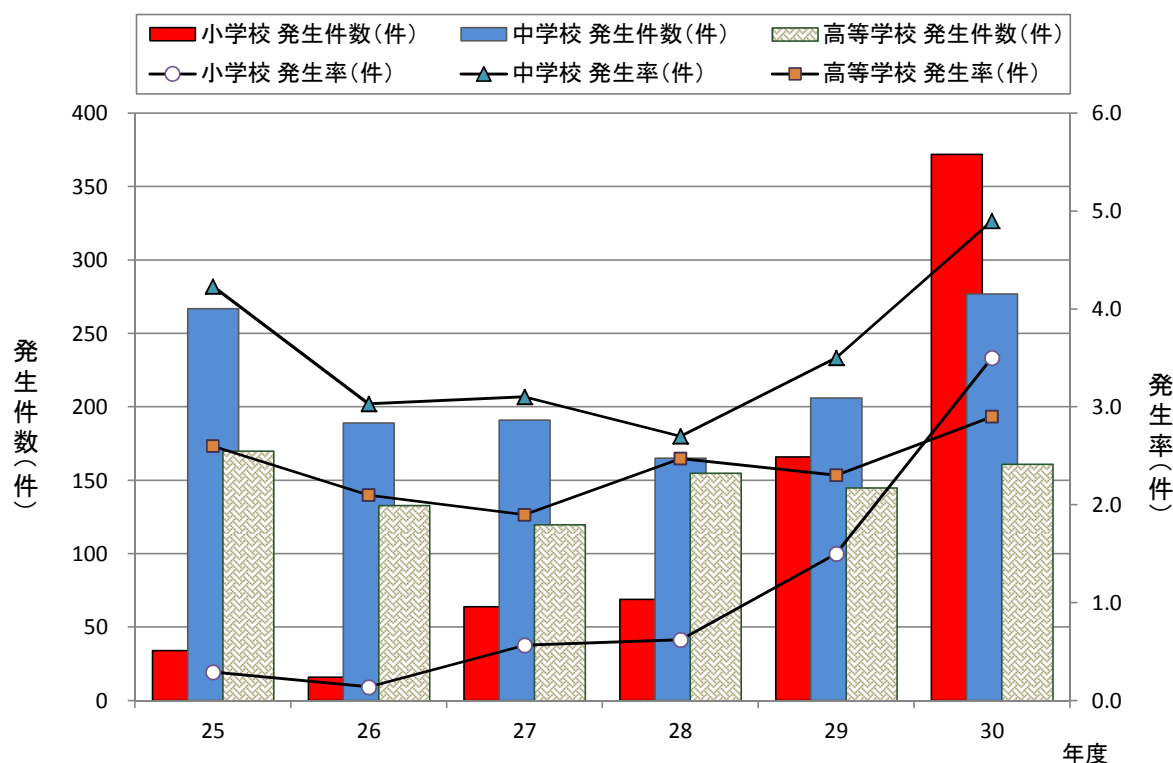


1 校種別発生件数及び発生率の推移

「暴力行為」は、小学校において発生件数、発生率ともに著しく増加
 ・ いじめの積極的な認知にあわせ、暴力行為において「軽くぶつかる」「叩く」なども含めて計上した学校数が増加した。
 ・ 特定の児童生徒が暴力行為を繰り返す事例が増加した。



年 度		25	26	27	28	29	30	
小 学 校	発生件数(件)	34	16	64	69	166	372	
	前年度増減(件)	▲9	▲18	48	5	97	206	
	発生率	県(件)	0.3	0.1	0.6	0.6	1.5	3.4
		全国(件)	1.6	1.7	2.6	3.5	4.4	5.7
中 学 校	発生件数(件)	267	189	191	165	206	277	
	前年度増減(件)	18	▲78	2	▲26	41	71	
	発生率	県(件)	4.2	3.0	3.1	2.7	3.5	4.8
		全国(件)	11.3	10.1	9.5	8.8	8.5	8.9
高 等 学 校	発生件数(件)	170	133	120	155	145	161	
	前年度増減(件)	▲22	▲37	▲13	35	▲10	16	
	発生率	県(件)	2.6	2.1	1.9	2.5	2.3	2.6
		全国(件)	2.3	2.0	1.9	1.8	1.8	2.1
合 計	発生件数(件)	471	338	375	389	517	810	
	前年度増減(件)	▲13	▲133	37	14	128	293	
	発生率	県(件)	1.9	1.4	1.6	1.7	2.2	3.6
		全国(件)	4.3	4.0	4.2	4.4	4.8	5.5

(注) 1 調査名：文部科学省「平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

2 平成30年度調査対象校：県内国公立・小中高等学校(通信制含む) 674校

3 発生率：児童生徒1,000人当たりの暴力行為発生件数(暴力行為発生件数/全児童生徒数×1,000)

2 校種別・内容別件数

校種 内容 年 度	対教師暴力			生徒間暴力			対人暴力			器物損壊			合 計		
	28	29	30	28	29	30	28	29	30	28	29	30	28	29	30
小 学 校	15	25	50	45	118	239	1	2	12	8	21	71	69	166	372
中 学 校	14	20	9	115	115	203	1	3	6	35	68	59	165	206	277
高 等 学 校	10	9	11	67	89	84	13	4	4	65	43	62	155	145	161
計	39	54	70	227	322	526	15	9	22	108	132	192	389	517	810

(注) 1：平成30年度調査対象校：県内国公私立・小中高等学校(通信制含む) 674校

2：「器物損壊」は校内のみを集計

3 課題と取組の方向性

(1)課題

- ・自分の思いを言葉でうまく表現できず、繰り返し暴力行為を起こす児童生徒への支援のあり方

(2)取組の方向性

- ・繰り返し暴力行為を起こしたり、自分の思いをうまく表現できない児童生徒の困り感に寄り添い、全教職員で暴力が起きにくい学級・学校づくりを推進する。
- ・不登校に係る課題解決のための取組の抜本的見直しに合わせ、取組を推進していく。

① より深い児童生徒理解と信頼関係の構築

- ・本人の特性の理解と問題行動のサインをつかむための児童生徒との教育相談活動の充実
- ・学校における特別支援教育の視点（授業のユニバーサルデザイン化等）の導入

② 人権感覚・規範意識を育てるための教育活動の充実

- ・公正・公平、遵法精神、公德心、相互理解などをテーマに取り入れた道徳教育の充実
- ・スクールサポーターなど地域人材の活用
- ・地域での体験活動やボランティア活動等による自己有用感の醸成
- ・自分の思いを相手に上手に伝えるためのソーシャルスキルを学ぶ

③ 教育相談体制の充実による暴力行為の前兆の発見や早期対応

- ・繰り返し暴力行為を起こす児童生徒に対し支援チームを立ち上げるなど、校内における指導方針の共有と指導体制の確立
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等による相談支援体制の充実
- ・学校だけでは対応が困難なケースにおける家庭、地域、関係機関（医療、警察、児童相談所、保護観察所、家庭裁判所等）との連携の更なる促進